

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）
事業計画（変更計画）書

平成25年 6月28日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

NPO法人等 (実施主体)	種別及び名称	ふくしまNPOネットワークセンター		
	住所	福島市置賜町1-29佐平ビル8F		
NPO法人等 (連携先)	種別及び名称		担当者名	
	住所		電話番号	

(2) 協議体が申請する場合

協議体の名称				
代表構成員の団体名 及び代表者職氏名				
構 成 団 体	都道府県・市区町 村名及び部課名		事業における 役割	
	民間非営利組 織の種別・名称		事業における 役割	
	住所		電話番号	

2 事業概要

事業名	“集い・学び・一緒に始める”ための「出前絆講座&ワークショップ」プロジェクト
総事業費	金 6,079,000円 (うち希望補助金額 金5,352,000円)
事業の実施期間	平成 25年 7月 日から平成 26年 3月 31日まで

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

地域における 課題と事業の 目的	<p>地域課題、地域社会にとっての必要性（ニーズ）及びその確認方法、重要性、この事業により期待できる成果、地域住民への効果等がわかるように記載してください。</p> <p>・そこに暮らす人々に活気が失せ、結びつきが弱くなり、居場所として自宅以外に寄る場所がなくなった時、その地域は引きこもりの地域となって人々の相互行為の総量は減少し、そこには葛藤もなければ新しく何かを生み出す力も生まれずその地域社会は衰退していくと言われるが、</p>
------------------------	--

	<p>避難地域の現状は、今まさに、こうした状況を露呈しつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大半を高齢者が占める東日本大震災・原発事故による避難住民の中には、家族や仲間と離れ、慣れない環境と先行き不透明で不安な日々を送る中で体調を崩したり、孤立化・引きこもりのケースが増加している。 <p>高齢者の多くは田畑へ出る機会を奪われ、体は鈍り、生きがいをも見失いつつある。一方、主婦の多くは、子どもの食と安全や年もかさんだ親の心配を抱え、将来を考えて家計への足しにと働きに出ることもままならないのが現状である。</p> <p>そこでは、住民自らが力を合わせて現状を改善したり、本格的な就労や事業再開までは行かずとも、仲間やグループによるコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネス活動への道を切り開くなど、希望と生きがいを見い出しながら前向きな一歩を踏み出す勇気ときっかけづくりが求められるとともに、住民の気分を一時的に盛り上げるイベントだけでなく、日常生活の安定、健康づくりにつながる地道な支援活動が必要となっている。</p> <p>そのため住民同士の絆・コミュニケーションづくりをはじめ、サークル活動の推進、今後の避難生活における生活改善や復興まちづくりを担っていく地域人材やリーダーの育成とともに、それを支援するNPO団体活動のスキルアップと人材養成も急務となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、こうした現状を踏まえ、現在、事業継続している「空き店舗を活用したビジネス型サロンを通じた起業化・雇用創出支援事業（平成24年度福島県地域づくり総合支援事業）」と連携しながら、経験を活かし、できる所から始める「農業の六次化」、子育てや介護の重労働を軽減する「相互扶助のまちづくり」、趣味や特技を生かした「手工芸品づくり」といった社会的起業やコミュニティ・ビジネスの手順とノウハウを学ぶ「出前絆講座&ワークショップ」を開催して、住民が集い・学ぶきっかけをかたちづくりとともに、住民同士が一緒になって始める中間就労型の社会的起業やコミュニティ・ビジネス活動への具体化を支援して、住民の居場所づくりや生きがいづくり、生活再建につなげる。 <p>併せて、こうした活動に主体的に取り組みながら、今後の復興まちづくりを担う地域人材や地域リーダーの育成と、当NPO法人並びに連携するNPO法人活動のスキルアップと人材育成を目標としている。</p>
<p>事業の目標</p>	<p>「〇〇を〇〇以上にする」等、可能な限り数値を用いて記載してください。</p> <p>「出前講座&ワークショップ」への参加者目標と社会的起業やボランティア活動グループ等の具体化（立上げ）目標は次のとおりである。</p> <p>①「出前絆講座&ワークショップ」の開催場所別延べ3日間（6講座）への避難住民受講者動員目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島駅前「チョコラボ」（福島中心市街地借上げ住宅住民対象）： 延べ3日間（6講座）×10名／講座＝30名 ・浪江町仮設住宅集会所（1ヶ所）：3講座×15名／講座＝45名

	<ul style="list-style-type: none"> ・飯舘村仮設住宅集会所（1ヶ所）：3講座×15名／講座＝45名 ②活動グループの具体化： 1グループ／各会場×3会場＝3グループ ③ニューズレターの発行： 出前講座とワークショップの報告、前後の募集・告知チラシとして計5回発行。
事業内容	<p>事業の内容、実施時期、実施場所（会場）、参集範囲及び参加予定人数等を具体的に記載してください。事業内容が複数に分かれる場合は、事業ごとに記載してください。</p> <p>(1)「出前講座&ワークショップ」の開催</p> <p>①事業の内容</p> <p>・はじめは向学心に訴えて避難住民を集会所に誘い、住民同士の結びつきを強めるとともに、農業の六次化やコミュニティ・ビジネス、身近な生活環境問題やまちづくりを考える講座をそれぞれの専門家、大学教授、関連NPO法人の実践者等を講師に招き、それぞれの手順やノウハウを習得する出前講座を開催する。また、講座の後に開くワークショップでの議論と意見交換の場のトレーニングを通して、自分たちの問題を、主体的に考え、行動できる人材の育成につなげる。今後は、ここで習得したノウハウや経験を、仮の町構想やふるさと帰還といった復興プロセスにおいて生かし、住民リーダーとしての活動・活躍を支援していく。</p> <p><出前講座&ワークショップのカリキュラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回（1日）の講座： <ul style="list-style-type: none"> 1時限（テーマ：農業の六次化を考える。90分）、2時限（テーマ：生活改善・相互扶助・まちづくりを考える。90分） ・③の3ヶ所の会場でそれぞれ延べ3回（3日間）開催し、それぞれのテーマ毎に【基礎編～事例編～計画立案編】の内容とする。 ・ワークショップは、各回の講座の後、テーマ毎に2グループに分かれ40分程度の時間で講座をもとに意見交換を行う。 ・講師は、1回の講座に2名、全体で延べ18名を予定。 <p>②実施時期</p> <p>・「出前講座&ワークショップ」の実施時期は、9月、10月、11月に、3会場にてそれぞれ3回ずつ計9回開催する。</p> <p>③実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当NPO法人が福島駅前で継続運営中の福島駅前のビジネス型サロン「チョコラボ」（福島中心市街地の借上げ住宅居住者を対象：参加予定人数＝3日間（6講座）×10名／講座＝30名） ・浪江町仮設住宅の集会所1箇所（地区の浪江町住民を対象：参加予定人数＝3日間（6講座）×15名／講座＝45名） ・飯舘村仮設住宅の集会所1箇所（地区の飯舘村住民を対象：参加予定人数＝3日間（6講座）×15名／講座＝45名） <p>(2)住民活動の具体化を目指しての社会実験の試行</p> <p>「出前講座&ワークショップ」を通して、具体的な動きとして可能性あるもの1～2ケースをピックアップして社会実験を試みる。</p>

	<p>予定としては、次のような起業化①と住民相互扶助活動②の試みを想定する。</p> <p>①農業の六次化の事例： 仮設住宅の近くに農地を借りての野菜作りや野菜等を材料とする加工品づくりといった農業の六次化。</p> <p>②生活改善のためのまちづくり実践： 高齢者介護または子供のケアを参加者の持ち回りで仮設住宅を訪問、お茶のみサロンを展開しながら介護の重労働から解放し合う相互扶助活動等。</p> <p>(3) ニュースレターの発行</p> <p>3会場での「出前絆講座&ワークショップ」開催内容を、避難住民並びに関係団体、一般市民等に広報するニュースレターを発行して、広く内外に情報公開して啓蒙を図る。</p> <p>・発行数は、各会場 3 回の出前塾の結果とその前後の募集・告知等チラシとして計 5 回発行。</p>
見込まれる成果	<p>1. 本県の復興支援・被災者支援の観点</p> <p>事業によって見込まれる成果について、直接的な効果と波及効果の観点の2つの観点で記載してください。被災者支援の場合は、特に、本事業により支援を受けた被災者の延べ人数を記載してください。</p> <p>①直接的な効果</p> <p>・直接的な効果は、「出前絆講座&ワークショップ」への参加者数であり、3会場での合計 120 名を予定する。</p> <p>・参加者同士としての親睦や結びつきが深まれば、住民間の絆・コミュニケーションづくりとしての効果が期待できる。</p> <p>②間接的な効果</p> <p>・モデル仮設住宅地区での「出前絆講座&ワークショップ」開催は、仮設住宅地全体に話題をもたらすとともに、参加者らによる仲間やグループ等による活動や起業化が進めば、周辺住民対しても希望を与え、生きがいづくりとしての波及効果が期待できる。</p> <p>・また、本事業を通して、地域問題を解決や復興まちづくりを考えたり、社会的起業やボランティア活動のリーダーとして活躍できる地域の人材やリーダーが育成できれば、住民側リーダーとして今後の避難生活や復興まちづくりの場面など復興プロセスにおいて重要な役割を担うことが期待される。</p> <p>2. 取組実施主体の運営力強化の観点</p> <p>取組内容により、取組実施主体においてどのように運営力強化が図られるのか記載してください。</p> <p>この「出前絆講座&ワークショップ」の運営に携わりながら避難住民や講師で招聘する専門家、連携NPO法人・団体等との交流を通して、避難住民と一緒に、新たなビジネスの起業やまちづくり問題の解決と住民が求める復興計画づくり支援へのノウハウや手順等の経験を積んで、当NPO活動のスキルアップと人材育成につなげるとともに、今後の復興支援活動に対し継続して貢献して行くことを目指す。</p>

<p>事業 スケジュール</p>	<p>いつ、どのような活動を行うのか、事業の進め方、段取りがわかるように記載してください。</p> <p>①7月（採択決定後）～8月： 事業準備、関係市町村・連携NPOとの調整、告知チラシと出前塾カリキュラム作成、参加者募集業務等。</p> <p>②9月・10月・11月： 月1回の「出前塾講座&ワークショップ」の開催とニュースレターの発行。</p> <p>③12月～2月： 住民活動の具体化を探る社会実験の試行（1～2ケース）</p> <p>④3月： 成果報告のとりまとめ。</p>
<p>事業実施体制</p>	<p>事業の実施責任者、会議体の構成員の名称及び役割分担等を記載してください。複数の団体が連携して申請する場合は、連携の具体的な内容についても記載してください。</p> <p>◇事業の責任者：ふくしま NPO ネットワークセンター理事長 星野 珠二</p> <p>◇会議体の構成と役割分担：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま NPO ネットワークセンター：事務局、企画・運営、連絡 ・福島市：空き店舗対策、支援情報提供、広報・連絡 ・(株)福島まちづくりセンター：チャレンジショップ事業との連携 ・福島商工会議所：求人情報、商工支援情報の提供等 ・NPO 市民福祉団体全国協議会（東京）：事業創造・人材育成指導等 ・NPO 法人（シャローム・まごころサービス・ビーンズ・花見山を守る会）：ソーシャルビジネスの実践指導、講師派遣 ・福島大学：セミナー講師派遣 ・浪江町・飯舘村役場と自治会：連絡調整と事業協力等
<p>事業終了後の 展開</p>	<p>事業終了後、会議体の取り組みをどのように継続し、または発展させるのかを記載してください。</p> <p>仮設等において、より多くの住民が、できる範囲で、希望と生きがいをもって参画できる中間就労型の社会的起業やボランティア活動の輪を一層広めるとともに、福島市や商工会議所等の起業支援や空き店舗対策等とも連携しながらコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスとしての発展を支援する。</p> <p>また、今後も住民とともに、復興プロセスの変化に伴い発生してくる新たな課題や問題の解決、住民参加による復興まちづくりなどを推進するためのワークショップを適宜開催して、情報交換と問題の解決、住民同士の絆・コミュニケーションの維持・強化を支援する。</p>
<p>事業の先進性・ 普及性</p>	<p>どのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるのかを記載してください。</p> <p>現在、住民を集会所に集めたり、前向きに一步を踏み出す元気を取り戻すことは容易でない状況にある。これに対して、「出前講座」としてこちらから出向き、「学ぶ」という、年齢に関係なく人間が持ち続ける“向学心”に訴えて住民を集め、絆を深めながら、自分の体力や労働条件に応じて参加できる中間就労型のコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスについて専門家から学ぶことで、前向きに一步を踏み出しているただきっかけをつくるというのが本事業の目的でもあり、しかけてもある。ふるさと帰還までのプロセスを乗り切っていくため、心身ともに徐々に鍛え直しながら、新たな希望と可能性を見い出してもらうことが</p>

	大切であり、他地区の仮設住宅やコミュニティーへの参考にも寄与するものとする。
特記事項	<p>特に説明しておきたい事項、アピールポイント等ありましたら記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素人考えではなかなかうまく行かないことが多いが、専門家（大学教授やNPO等活動実践者等）から農業の六次化やソーシャル・ビジネスの進め方、その基礎編から起業化に至るまでのノウハウを学ぶことで、住民の参加意欲や興味を高めるとともに、実際に活動やビジネスとして立ち上がる可能性が高くなることを期待できる。

※用紙が足りない場合は、適宜追加してください。

※地域社会にとっての必要性（ニーズ）について確認できる資料（新聞の切り抜きやアンケート結果等）がある場合は、A4用紙1枚（両面可）に限り添付できます。

第3号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）

収 支 予 算 書

特定非営利活動法人ふくしまNPOネット
ワークセンター

申請者名 理事長 星 野 珙 二

【収入の部】

（単位：千円）

区 分	平成25年度 予 算 額	明 細
ふるさと・きずな維持・再生 支援事業補助金	5,352	
自己資金（負担者名）	727	
事業収入	0	
その他収入	0	
収入合計	6,079	

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成25年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	3,813	①スタッフ2名 ・給与 664円×10時間×23日×9ヶ月×2名=2,748,960円 ・通勤手当 @9.16千円/月×9ヶ月×2名=164,880円 ②パート1名 ・給与 100千円/月×9ヶ月=900,000円
報償費	336	①講師謝金延べ18名 ・28,100円×9名=252,900円 ・9,300円×9名=83,700円
旅費	135	①講師旅費 ・5千円×延べ18名=90,000円 ②スタッフ旅費一式 45,000円
需用費	450	
消耗品費	135	①事務消耗品費（筆記用具・コピー用紙・ファイル等） ・15千円/月×9ヶ月=135,000円
燃料費	270	①水道光熱費 30千円×9ヶ月=270,000円
印刷製本費	45	①印刷費 ・5千円×9ヶ月=45,000円
役務費	138	

3,813,890

336,600

通信運搬費	120	①切手代・郵送代 30千円 ②電話代 10千円/月×9ヶ月=90千円
手数料	18	②振込手数料 18千円
保険料		
使用料及び賃借料	702	①机・イスのレンタル料 ・30千円/月×9ヶ月=270,000円 ②賃借料(家賃・共益費) ・35千円/月×9ヶ月=315,000円 ③パワーポイント用幕 ・10千円/月×9回=90,000円 ④集会所使用料(講座開催9回) ・3千円×9回=27,000円
委託料	505	①ワークショップハシリテーター業務委託(2名) ・2名×28,100円/回×9回=505,800円
支出合計	6,079	

注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。

注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。

注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の用途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、用途の区分が分かる資料を添付すること。